

ベースボールカフェ

NO.15

2020年1月25日
三好ベースボールアカデミー
三好泰宏

TEL・FAX 011-897-3535
携帯 090-59892587

E-mail: my.baseball.1977@jcom.zaq.ne.jp



ご挨拶

2020年の東京オリンピックでは開催されますが、次のフランス・パリでは競技種目に入っていません。

なぜかは、『夏季オリンピックの競技は、男子では4大陸75カ国以上、女子では3大陸40カ国以上で広く行われている競技のみ』の規定があるからです。

これからベースボールがオリンピック種目になるには、東京大会の内容が影響をもたらすと思います。世界の競技人口の四分の一を占めている日本だけに、発展に寄与しなければなりません。

オリンピックのベースボール状況

オリンピックのベースボールは、1904年(明治37)アメリカ・セントルイスで公開競技として初めて実施されました。

その後、1912年(大正元年)ストックホルムで再び公開競技として実施され、1936年ベルリン(昭和11・私の誕生日)と続き、1952年ヘルシンキではフィンランド式野球のペサパッコが公開競技として実施されましたが、正式種目になることはありませんでした。

以後、1956年メルボルン、1964年東京(昭和39・息子の誕生日)、1984年ロサンゼルス、1986年ソウルの4大会で公開競技として行われ、1992年スペイン・バルセロナから正式種目となり5大会連続で実施されました。が、2012年ロンドンでは正式種目から外され実施されず、前回の2016年ブラジル・リオデジャネイロでも実施されませんでした。

2020年東京オリンピックでは正式種目ではなく、開催都市提案の追加種目として実施されることになりました。

世界のベースボール状況

WBC(ワールドベースボールクラシック)という大会があります。この大会は、メジャーリーグベースボー



ル(MLB)機構とMLB選手会により立ち上げられ、ワールド・ベースボール・クラシック・インク(WBCI)が主催しています。初年度は、2006年とまだ歴史は浅いですが19か国が参加して、他のW杯と同じように4年に一度開催しています。

第1回大会(2006)は、王貞治監督、第2回大会(2009)は、原辰徳監督が率いたチームが優勝しましたが、3回大会(2013)はドミニカ共和国、4回大会(2017)はアメリカ合衆国の優勝で日本は4位に甘んじています。

この大会はベースボールのグローバル化を目指していますが、いま一つ世界で盛り上がりません。それは、本家のアメリカ大リーグの主力選手が参加しないからです。日本も3回以降その傾向にあります。これでは「世界一決定戦」と銘打っても、サッカーのW杯やこの度のラグビーW杯、ゴルフのマスターズ、テニスの四大大会などのように高い関心は持たれません。

今後の課題

ベースボールが世界のスポーツとして愛され普及するにはいくつかの課題があります。

まずは、これまでに参加のない国の皆さんに、ベースボール映像を見てもらい、美しい芝生の上で、投・打・守・走に渡るエキサイティングなパフォーマンスに感動を持ってもらうことです。

このたびのラグビーW杯がそうでした。ルールを知らない子供から老人男女までが世界の最高のパフォーマンスに酔いました。

WBCは主催国アメリカが、大リーグの主力選手を参加させて魅力を発信しなければなりません。日本も同じです。選手選考に苦勞しているようですが、イチローさんが出て優勝した試合は盛り上がりました。

普及活動は、日本人はそれほど苦にはしていませんが、ヨーロッパのフットボールのような簡単なルールではありませんので、どのような方法で指導者にルールを理解してもらうか、審判員の指導と合わせて方法を講じなければなりません。

私はブラジルに少年野球の指導に行ったことがあります。日系人の指導者がブラジルのベースボール普及に真剣に取り組んでいました。それは、日系人青少年の健全育成とブラジルにベースボールを普及させる願いを込めた活動でした。移民した一世のおじいちゃんがまいた種をいま3世のお孫さんが実らせています。

ベースボールを普及させるためには目的がなければなりません。子供たちの健全育成にはスポーツが大きな役割を持っています。東京の成功を願ってやみません。